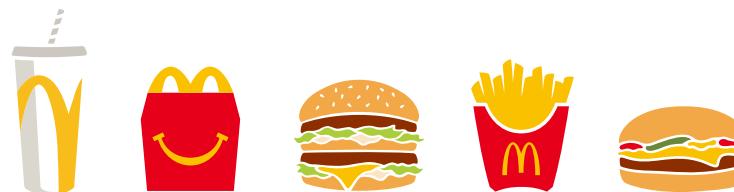




**McDonald's
Sustainability Report
2024**



目次

Introduction

はじめに

毎日多くのお客様をお迎えし、お食事をご提供しているマクドナルドには、世界が抱えるあらゆる課題に地域社会の一員として立ち向かう、大きな責任があります。本レポートでは、“おいしさと笑顔を地域の皆さんにお届けする”当社の持続可能な社会の実現に向けた取り組みを紹介します。

- 03 CEOメッセージ
- 04 パーパス・会社概要
- 05 マクドナルドシステム
- 06 サステナビリティ方針と戦略
- 08 目標と進捗
- 09 2024年ハイライト

Our Planet

地球環境のために

私たちは、地球のため、将来のために、気候変動対策に真摯に向き合っています。「2050年までにネット・ゼロ・エミッション達成」という目標に向け、世界的な気候変動や環境課題に社会の一員として積極的に取り組み、環境保全に寄与すると共に、事業活動における環境負荷軽減を常に検討し、行動しています。

- 14 気候変動への対策
- 17 パッケージ、ハッピーセット®のおもちゃ、食品の2R

Food Quality & Sourcing

安心でおいしいお食事を

私たちは、食の安全をすべてに優先させるため、「安全・品質・衛生」において世界最高の食品管理システムを目指して、たゆまぬ努力を続けています。安定供給はもちろん環境課題や社会課題の解決に向けサプライヤーと連携して取り組み、栄養バランスに配慮したメニューのご提供、アニマルヘルス＆ウェルフェアにも真摯に取り組んでいます。

- 20 食品安全
- 23 お子様向けの商品に対する責任
- 24 責任ある調達
- 25 アニマルヘルス＆ウェルフェア

Jobs, Inclusion & Empowerment

働きがいをすべての人に

私たちは、マクドナルドのビジネスを支えているのは“人”であると考え、多様な人材が活躍し、誰もが自分らしく働き、働きがいを感じることのできる職場環境の実現を目指しています。安全で尊重しあえるインクルーシブな職場環境を推進すると共に、日々成長機会を提供し、自らの選択と努力次第でどこまでも成長できる「UP TO YOU」なキャリア構築を支援しています。

- 27 ピープルビジョン
- 28 ダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン(DE&I)
- 31 人材育成とキャリア
- 33 安全で尊重しあえるインクルーシブな職場環境

Community Connection

地域の仲間にサポートを

私たちは、創業者レイ・A・クロックの言葉にもあるとおり「私たちをいつも支えてくださっている地域の皆さまへお返しをする義務がある」と考えています。コミュニティの一員として、子供たちとご家族、そしてお客様や地域・社会の皆さまの笑顔を第一に考え取り組んでいます。

- 35 ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援
- 36 キッズスポーツ支援
- 37 地域コミュニティと連携した活動
- 38 教育支援



CEOメッセージ



日本マクドナルド株式会社
代表取締役社長 兼 CEO
トマス・コウ

「日本で最も愛されるレストランブランド」を目指して。

日頃よりマクドナルドをご愛顧いただき、誠にありがとうございます。また全国約3,000店舗で日々お客様により良い店舗体験を提供してくださっているクルー(アルバイト従業員)の皆さん、安全・安心な食材を供給いただいているサプライヤーの皆さんにも感謝申し上げます。

2024年7月の着任以来、私は北海道から九州まで全国の店舗やサプライヤーを訪問し、お客様やステークホルダーの声を聞くことに、できるだけ多くの時間を費やしていました。この過程で、いかにマクドナルドがお客様、地域社会の中で特別な存在であるかを再認識することができました。マクドナルドはなぜ社会に存在するのか。それは“おいしさと笑顔を地域の皆さんに”お届けするためです。ハンバーガーを売ること自体が私たちの目的ではありません。“おいしさとFeel-Goodなモーメントを、いつでもどこでもすべての人に”お届けすることを通して、お客様だけではなく、従業員、そして地域の方々に笑顔になっていたいだくことが私たちの存在意義です。フランチャイジーと共に地域に根差した持続的な成長を実現する、この“地域に根差した持続的な成長”の中にはもちろん、地球環境や地域社会に配慮した事業運営という意味が含まれます。

2024年の日本のサステナビリティ活動の進捗をご紹介します。

2050年のネット・ゼロ・エミッション達成に向けて、温室効果ガス排出量の削減においては、従来推進してきた店舗の省エネの取り組み、再エネの追加と継続的な調達を約520店舗で導入できており、店舗における太陽光パネル設置やEV充電器の設置のテストを開始しました。また、12月より関東・関西の計約210店舗において、コーポレートPPA(発電事業者との長期契約)による再生可能エネルギーの導入を開始しています。

プラスチックの削減でも着実に歩みを進めています。私たちは2025年末までにすべてのお客様提供用パッケージ、ハッピーセットのおもちゃをサステナブルな素材へ移行するという目標を掲げています。2024年は152種類のおもちゃのうち60種類をサステナブル素材へと切り替えたほか、12月には全国でマックフルーリー®のスプーンと容器、ドリンク用プラスチックカップの一部とリッド(ふた)をサステナブル素材へ切り替えました。2018年より全国で実施しているハッピーセットのおもちゃリサイクル(店頭でのプラスチック製おもちゃの回収とリサイクル)も継続しています。

持続可能な食材の調達においては、8月にMSC「海のエコラベル」付き水産物の普及に貢献したことが評価され、

「MSCジャパン・アワード 2024」フードサービス部門を受賞しました。

コミュニティ活動では、ドナルド・マクドナルド・ハウス支援の「青いマツクの日」をはじめとするチャリティ活動も年々お客様に浸透し、支援の輪が広がり、継続的な募金活動に結びついています。皆さまの協力もあり、2024年は総額1億5,815万円をドナルド・マクドナルド・ハウス財団へ寄付することができました。

全国で約21万人のクルーを雇用する私たちは、これからも地域社会においてよき雇用主であり続けたいと考えています。昨年は女性活躍推進の取り組みなどを評価いただき、初めて「なでしこ銘柄」に選定されました。現在日本マクドナルドの女性店長比率は34.2%、女性管理職比率は25.3%に達しています。また3月にはクルーのアピアランスポリシーを改訂、髪色を自由化することでより多様な人材が自分らしく働ける職場環境を強化しています。

私は、マクドナルドの店舗やオフィスで働くすべてのスタッフ地域に根差して店舗運営を担ってくださっているフランチャイジー、サプライヤーの皆さんとの連携を主軸に、お客様に最高の店舗体験と意義のある価値を、持続可能な方法で提供し続けることに尽力していきます。今後ともマクドナルドをご愛顧賜りますようお願い申し上げます。

パーサス・会社概要

Our Purpose

私たちの存在意義

おいしさと笑顔を地域の皆さんに

Our Mission

私たちの使命

おいしさとFeel-Goodなモーメントを、
いつでもどこでもすべての人に。

Our Values

私たちの価値観



Serve

サーブ

お客様とピーブルを
第一に考えます



Inclusion

オープンドアの精神で
多様性を活かします



Integrity

常に正しいことを
します



Community

地域に
貢献します



Family

力を合わせて
成長します

会社概要

日本マクドナルド株式会社

所在地	〒163-1339 東京都新宿区西新宿6-5-1 新宿アイランドタワー
設立	1971年(昭和46年)5月1日
資本金	1億円
事業内容	ハンバーガー・レストラン・チェーンの営業並びにそれに付帯する一切の事業
店舗数	2,988店
売上高	8,291億円(直営店・フランチャイズ店合計売上)
社員数	2,693人(契約社員を除く) アルバイト従業員 約21万人(直営店・フランチャイズ店合計)

※数値は2024年12月現在

報告の対象範囲ほか

報告対象組織	日本マクドナルド株式会社(一部日本マクドナルドホールディングス株式会社を含む)
報告対象期間	2024年1月1日～2024年12月31日
報告対象分野	社会的責任関連全般(環境・社会・ガバナンス)
作成部	コミュニケーション&CR本部

以下の名称はMcDonald's Corporation及びその関係会社の登録商標又は商標です。
ハッピーセット、マックフレーリー、フィレオフィッシュ、DMHC、FSC

マクドナルドシステム

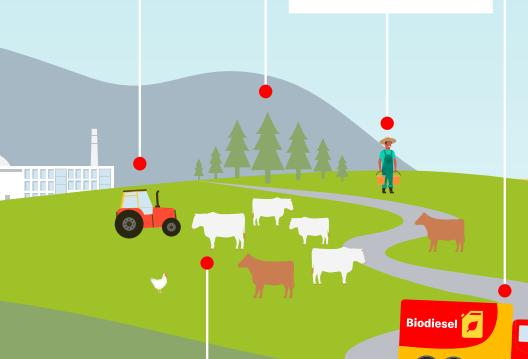
サプライヤー

「サプライヤー行動規範」の遵守と
責任ある調達
サプライチェーンにおける
物流の効率化

自然および生物多様性と
生態系の保護

サプライチェーンにおける
森林保全の取り組み

サプライチェーンに
おける人権の尊重



アニマルヘルス&ウェルフェア

当社の事業、従業員およびフランチャイジー

食品安全

生産地からお客様に届くまでの食品安全を管理

パッケージ・ハッピーセットのおもちゃ・食品の2R

バージンプラスチック*および廃棄物の削減
※ 化石資源由来の原料を新規に使用したプラスチック

お子様向けの商品に対する責任
栄養バランスに
配慮した食事の提供
栄養情報の開示

ダイバーシティ・エクイティ &
インクルージョン (DE&I)

従業員
人材育成と
キャリア
安全で尊重しあえる
インクルーシブな職場環境
人権の尊重

オフィス
温室効果ガス排出量削減

直営およびフランチャイズ店舗
温室効果ガス排出量削減
バージンプラスチックおよび
廃棄物の削減とFSC®認証材や
サステナブル素材の使用



地域社会

地域における雇用

地域の安全安心を守る
取り組み・美化活動

子供たちの成長を支える活動
キッズスポーツ支援、子育て支援、教育支援

チャリティ文化の醸成
ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援



サステナビリティ方針と戦略

より良い未来のために、 皆さまとともに

毎日多くのお客様をお迎えし、お食事をご提供している私たちには、大きな責任があります。それは、世界が抱えるあらゆる課題に、地域社会の一員として立ち向かうこと。

そう考えるから
私たちはこれからも、安全安心で品質がよい食事を提供し続けます。
気候変動対策に真摯に向き合います。
地域に暮らしている人々の毎日を支援します。
あらゆる人がいきいきと働き成長できる機会を増やします。

すべては、おいしさと笑顔を地域の皆さんにお届けするため。
これからも私たちは、歩み続けます。

サステナビリティ戦略

私たちのビジネスは、お客様、従業員、フランチャイズ法人、サプライヤーや地域の皆さまなど、様々なステークホルダーとの関係の上に成り立っています。私たちは、「おいしさと笑顔を地域の皆さんに」をパーソスとして掲げており、これを実現するために、以下の4つを重要なサステナビリティ[※]課題領域と定め、私たちの強みと規模を活かして取り組んでいます。

安心でおいしいお食事を

– Food Quality & Sourcing

安全安心で高品質なお食事を提供し続けます

地球環境のために

– Our Planet

地球のため、将来のために、気候変動対策に真摯に向き合います

地域の仲間にサポートを

– Community Connection

地域に暮らしているすべての人の毎日を支援します

働きがいをすべての人に

– Jobs, Inclusion & Empowerment

あらゆる人がいきいきと働き成長できる機会を増やします

Our Planet

地球環境のために



Jobs, Inclusion & Empowerment

働きがいをすべての人に

4つの 重点領域

Food Quality & Sourcing

安心でおいしいお食事を



Community Connection

地域の仲間にサポートを

注力するSDGsの目標



詳しくは当社HPをご覧ください。

<https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/sdgs/>

「サステナビリティに関する考え方及び取り組み」については、2024年12月期 有価証券報告書（2025年3月26日開示）にも記載しております。あわせてご参照ください。

https://www.mcd-holdings.co.jp/ir/library_financial_report/

※サステナビリティ：持続可能性。「環境・社会・経済」の持続可能な発展を目指す考え方や取り組みを指します。

サステナビリティ方針と戦略

ガバナンス

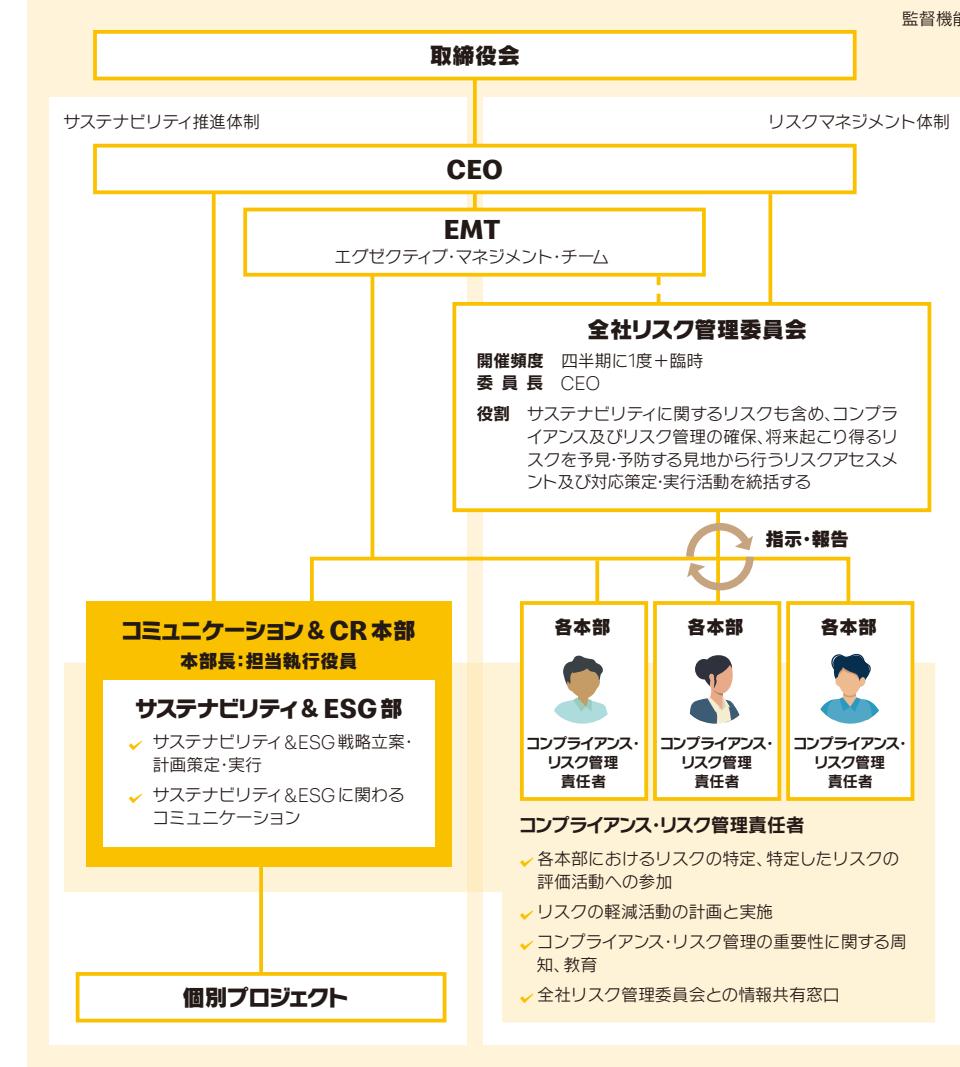
取締役会および監査役会による監督のもと、各担当執行役員によるイニシアチブと、部門横断的なプロジェクトの推進により、社会課題の解決と持続可能な経営の両立を目指しています。

代表取締役社長兼最高経営責任者(CEO)が関連する取り組みや進捗状況を統括管理し、執行役員 コミュニケーション & CR本部長(以下、担当執行役員)の監督のもと、管轄部署であるサステナビリティ & ESG部が、サステナビリティの取り組みを推進しています。同部は、全社的なサステナビリティに関する戦略立案や計画策定を行い、各取り組みについての進捗状況を集約しています。それらの情報は、担当執行役員を通じてCEOに報告され、定期的(年1回以上)に取締役会へ報告されます。取締役会はこの報告を受け、サステナビリティに関する戦略の実行が企業の持続的な成長に資するよう監督しています。

ビジネス・レジリエンス

サステナビリティに関する重大なリスクについては、コンプライアンスを含むその他のすべてのリスクと共に、全社リスク管理委員会にて、その特定と評価並びに管理を行っています。全社リスク管理委員会は、原則四半期に1度開催し、さらに重要リスクについて個別に審議が必要と判断した場合に臨時開催し、その取り組みは定期的(原則年1回)に取締役会へ報告しています。

また、人権、コンプライアンス、サステナビリティに関するリスクについても、このプロセスの中で、認識・評価・管理されています。各本部の執行役員が参加する全社リスク管理委員会では、同本部に係るコンプライアンス・リスク管理責任者としてその進捗や懸念されるリスクについての共有を行い、全社的な戦略を踏まえたリスク管理を実行しています。



人権の尊重

私たち日本マクドナルドホールディングス株式会社及び日本マクドナルド株式会社(以下総称して「日本マクドナルド」といいます。)は、人権を尊重するとともに、他者の人権への負の影響がないよう十分な注意を払い、万が一人権侵害がある場合には、それに対処するために、誠実に行動します。

当社は、世界人権宣言に定められた人権の尊重に取り組みます。この人権に関する方針(以下「本方針」という)は、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」、「国際人権章典」、および国際労働機関(ILO)の「労働における基本的原則および権利に関する宣言」に記載された原則を指針としています。

私たちは、事業を行う上で、すべての人の機会均等、差別やハラスメントなどのない安全で健全な職場等の、日本マクドナルド従業員の基本的権利を尊重します。

本方針は、日本マクドナルドの方針であるとともに、マクドナルドのフランチャイズ法人も遵守することを推奨します。また、日本マクドナルドで定めている、「業務上の行動規範」や「サプライヤー行動規範」等にも本方針に関連する規範が含まれています。「業務上の行動規範」には、職場における人権を尊重するという私たちのコミットメントが含まれており、日本マクドナルドの全従業員に適用されます。日本マクドナルドの「サプライヤー行動規範」には、サプライヤーに対する日本マクドナルドの人権尊重のためのガイドラインが記載されています。

詳しくは当社HPをご覧ください。

<https://www.mcd-holdings.co.jp/company/humanrights>

目標と進捗

				達成	順調	強化
Our Planet 地球環境のために		目標	進捗度	取り組み状況	データ	
 <p>Our Planet 地球環境のために</p> <p>気候変動への対策</p>	<p>2050年までに ネット・ゼロ・エミッション達成</p>	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・再生可能エネルギーの導入 ・省エネルギーに向けた取り組み ・店舗における国産木材の活用 	<p>(進行中)</p>	 <p>温室効果ガスの排出量（オフィス） 0t 再エネ調達率100%</p>	 <p>温室効果ガスの排出量 (直営店舗・フランチャイズ店舗) 314,268t 2018比 ▲21.3% ※電気とガスの排出量</p>
	<p>2030年までに 店舗とオフィスにおける温室効果ガス排出量を 50.4%削減(2018年比)</p>	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・物流の効率化 ・廃棄物の削減、リサイクルの実施 		 <p>再生可能エネルギー由来の電力 導入店舗数 約520店舗</p>	 <p>再生可能エネルギーの割合 15.5%</p>
	<p>2030年までに サプライチェーン(施設、ロジスティック、プラスチック包装)に おける温室効果ガス排出量を50.4%削減 牛肉(乳牛を含む)と鶏肉において温室効果ガス 排出量を16%削減 (2018年比)</p>	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト開始 			
 <p>Jobs, Inclusion & Empowerment 働きがいをすべての人に</p> <p>ダイバーシティ・ エクイティ & インクルージョン (DE&I)</p>	<p>2025年末までに すべてのお客様提供用パッケージ類および Happy Setのおもちゃを再生可能な素材、 リサイクル素材または認証された素材に変更</p>	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブル素材の活用 	<p>(進行中)</p>	 <p>すべてのお客様提供用パッケージ類のうち サステナブル素材に変更した割合（重量比） 88.8%</p>	 <p>サステナブルな素材を使用した Happy Setのおもちゃの割合 39.5%</p>
	<p>2030年までに 女性管理職比率40%を達成</p>	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・女性活躍の推進 		 <p>女性管理職比率 25.3%</p>	 <p>女性役員比率 27.8%</p>
	<p>人権方針の策定と推進</p>	✓	<ul style="list-style-type: none"> ・人権方針の策定 ・サプライチェーン人権プログラム (SCHR) の導入 ・Putting People first visit (PPFV) の実施 			 <p>女性店長比率 34.2%</p>

2024年ハイライト

Our Planet

地球環境のために

気候変動への対策

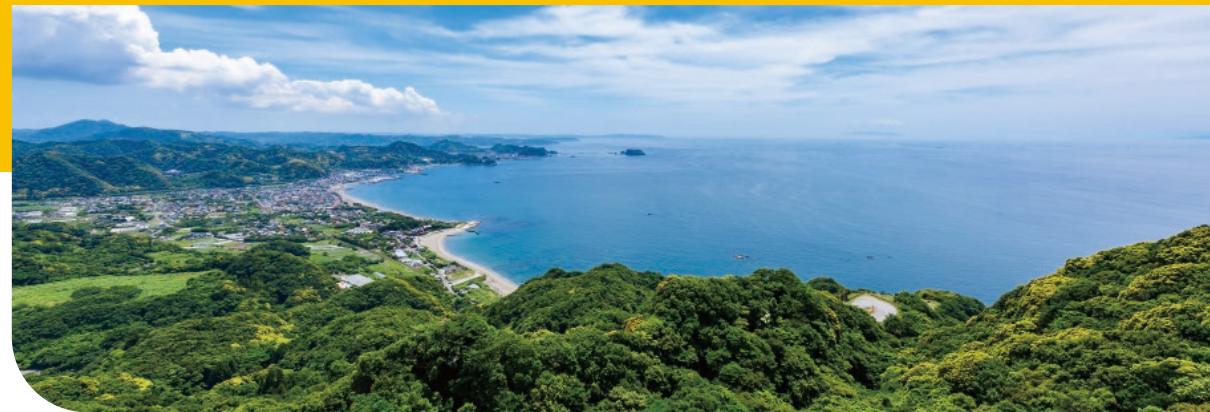
→ P14

温室効果ガス削減の推進

オフィスの再エネ調達率100%達成

太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーに由來した電力の導入を進めています。

オフィスにおける再生可能エネルギーの調達は100%完了し、電力のCO₂排出実質ゼロを達成しました。



オフィスのCO₂排出量*

0t

再生可能エネルギー調達率
100%達成

直営店舗・フランチャイズ店舗のCO₂排出量*

314,268t

2018年比

▲21.3%

*電気とガスの排出量

再生可能エネルギーの割合

15.5%

再生可能エネルギー由来の電力導入店舗数

約520店舗

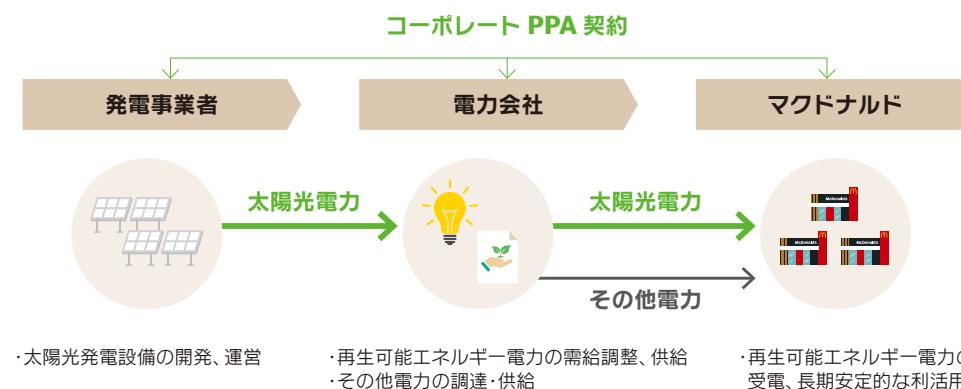
コーポレートPPAの導入店舗数
206店舗

コーポレートPPAの導入

長期的に再生可能エネルギーを購入するため、発電事業者と直接契約を結ぶ「コーポレートPPA」の導入を進めています。

2024年12月に関東エリア73店舗、2025年2月に関西エリア133店舗、全国206店舗で導入しました。

コーポレートPPAサービスによる電力供給イメージ



パッケージ、ハッピーセットのおもちゃ、食品の2R

→ P17



回収したおもちゃの数

累計約2,280万個

食品ロス率

2.3%

食品リサイクル率

70.1%

*食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む

使用済み紙カップのリサイクルの開始



2024年ハイライト

Food Quality & Sourcing

安心でおいしいお食事を

責任ある調達

P24



「MSC ジャパン・アワード 2024」受賞

2024年に初めて開催された「MSC ジャパン・アワード」にて、日本マクドナルドはフードサービス部門を受賞しました。本賞は、MSC 認証水産物を国内に広めることに貢献した事業者をたたえるための賞です。

フィレオフィッシュ®において、2015年7月にMSC漁業認証を取得している漁業で獲られたスケソウダラの調達を開始、2019年10月にMSC CoC認証を取得しました。現在はフィレオフィッシュのパッケージにMSC「海のエコラベル」を表示しています。



**MSC認証取得漁業で獲られた
フィレオフィッシュの白身魚の割合
100%**

お客様向け紙製容器包装類、
トレイマットおよび木製カトラリー類の
FSC®認証取得率

100%

コーヒー豆のレインフォレスト・
アライアンス認証取得率

100%

フライオイルの
RSPO認証取得率

100% ※マスバランス認証



食品安全

P20

SQMS要求事項を満たしたサプライヤーの割合

100%

※SQMS: GFSI規格要求事項に独自項目を追加した、さらに
厳しい食品安全マネジメントシステム

DQMP

第三者による監査を実施し、
当社の基準を満たした配送センター数・割合

15センター 100%

※DQMP: 物流倉庫品質マネジメントプログラム

外部の検査会社を通じて実施された
監査としての要件を満たした店舗数・割合

約3,000店舗 100%

お子様向けの商品に対する責任

P23

ハッピーセットにおける合成香料、
合成着色料の除去

100%

アニマルヘルス & ウエルフェア

P25

2024年ハイライト

Jobs, Inclusion & Empowerment

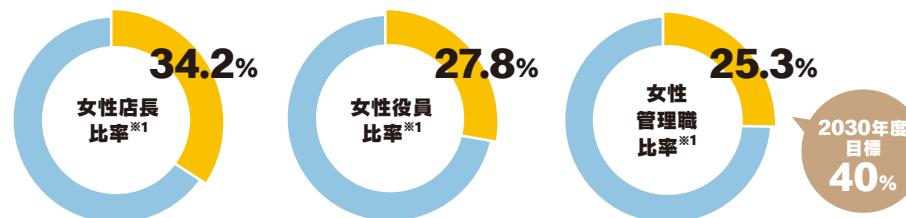
働きがいをすべての人に

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン(DE&I)

P28

「なでしこ銘柄」への初選定

経済産業省と東京証券取引所が女性活躍推進に優れた企業を選定する「なでしこ銘柄」において、2024年3月、初めて選定されました。

アピアランスポリシーの一部改訂
(髪色の自由化)

2024年3月、クルーのアピアランスポリシーを改訂し、髪色を自由化しました。



全国クルー人数
約**210,000人**

若い世代のクルー
(24歳以下)
約**140,000人**

障がい者雇用比率^{*2}
2.5%

従業員エンゲージメント^{*3}
90.1% 従業員サービスのエンゲージメントに関する項目より算出

出産・育児・介護休業制度利用者^{*1}
129人

有給休暇取得率^{*1}
60.6%

※1 対象者は日本マクドナルド株式会社社員

※2 対象者は日本マクドナルド株式会社社員およびクルー

※3 対象者は日本マクドナルド株式会社社員と店舗従業員、およびフランチャイズ店舗従業員

※4 対象者は日本マクドナルド株式会社常時雇用労働者



ピープルビジョン

P27

人材育成とキャリア

P31

1年にハンバーガー大学の授業を受講する社員およびクルー
約**14,657人**

クルー経験のある社会人
約**300万人**

安全で尊重しあえる
インクルーシブな
職場環境

P33

2024年ハイライト

Community Connection

地域の仲間にサポートを

ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援

→ P35

青いマックの日(マックハッピーデー)
募金・寄付総額過去最高を記録

病気と向き合う子供とそのご家族のための滞在施設「ドナルド・マクドナルド・ハウス」支援を目的としたチャリティ活動「青いマックの日」を、10月20日(日)に全国の店舗にて実施しました。皆さまからお寄せいただいた募金はすべてドナルド・マクドナルド・ハウス財団(DMHC®)へお届けさせていただきました。皆さまからの温かいご支援・ご協力に、心から感謝を申し上げます。

青いマックの日
(マックハッピーデー) 募金・寄付総額**105,009,725円**

※10月1日～31日のハッピーセット販売数に応じた寄付、店頭募金、募金付きクーポンによる募金、モバイルオーダーからの募金を含む

お客様から募金いただいたDMHC支援
年間総額**158,157,652円**

※店頭募金、募金付きクーポンによる募金、モバイルオーダーからの募金を含む



キッズスポーツ支援

→ P36

スポーツ体験会を実施

マクドナルドがサポートしているキッズスポーツの各大会(一部会場)にて、スポーツ体験会を開催しました。運動やスポーツの頻度が低下しているといわれる子供たちに「自由に体を動かしたり、バスケットボール、野球、サッカーで楽しく遊んでもらいたい」という思いを込めて、各競技の未経験者でも楽しめる体験コーナーを設けました。



第55回マクドナルド全国ミニバスケットボール大会

全国約8,340チーム

高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会
マクドナルド・トーナメント

全国約10,000チーム

支援児童約39万人

JFA 全日本U-12サッカー選手権大会

全国約8,200チーム

支援児童約36万人

地域コミュニティと
連携した活動

→ P37

子育て支援における
ハッピーセット販売数**359,161セット**「こども110番の家」実施店舗数
2,420店舗令和6年能登半島地震災害義援金
日本マクドナルド寄付額**2,000,000円**

お客様から寄せられた募金額*

18,078,335円

※1月4日～31日、全国の店舗にて実施。
店舗により一部実施期間が異なります

教育支援

→ P38

 <https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/>



地球環境のために

Our Planet

地球のため、将来のために、気候変動対策に真摯に向き合います。
「2050年までにネット・ゼロ・エミッション※達成」という目標に向け、
世界的な気候変動や環境課題に社会の一員として積極的に取り組み、
環境保全に寄与すると共に、事業活動における環境負荷軽減を常に検討し、行動していきます。

※温室効果ガスの排出量を「実質ゼロ」にすること

Our Planet

14 気候変動への対策

17 パッケージ、ハッピーセットのおもちゃ、食品の2R

気候変動への対策



マクドナルドに関する
すべての事業活動において、
常に気候変動対策に向き合います。



温室効果ガスの排出量

2030年までに「店舗とオフィスにおける温室効果ガス排出量を50.4%削減(2018年比)」を掲げ、
温室効果ガスの排出量削減に取り組んでいます。

オフィス (マクドナルドの総合研究施設を除く)

2024年 0t

再生可能エネルギー調達率
100%達成



直営店舗・フランチャイズ店舗

2024年 314,268t

2018年比
▲21.3%
※電気とガスの排出量

脱炭素に向けた取り組み

2030年までに「店舗とオフィスにおける温室効果ガス排出量50.4%の削減(2018年比)」と目標を掲げ、再生可能エネルギーに由来した電力の導入や店舗でのエネルギー管理など環境負荷の削減に努めています。

再生可能エネルギーの導入

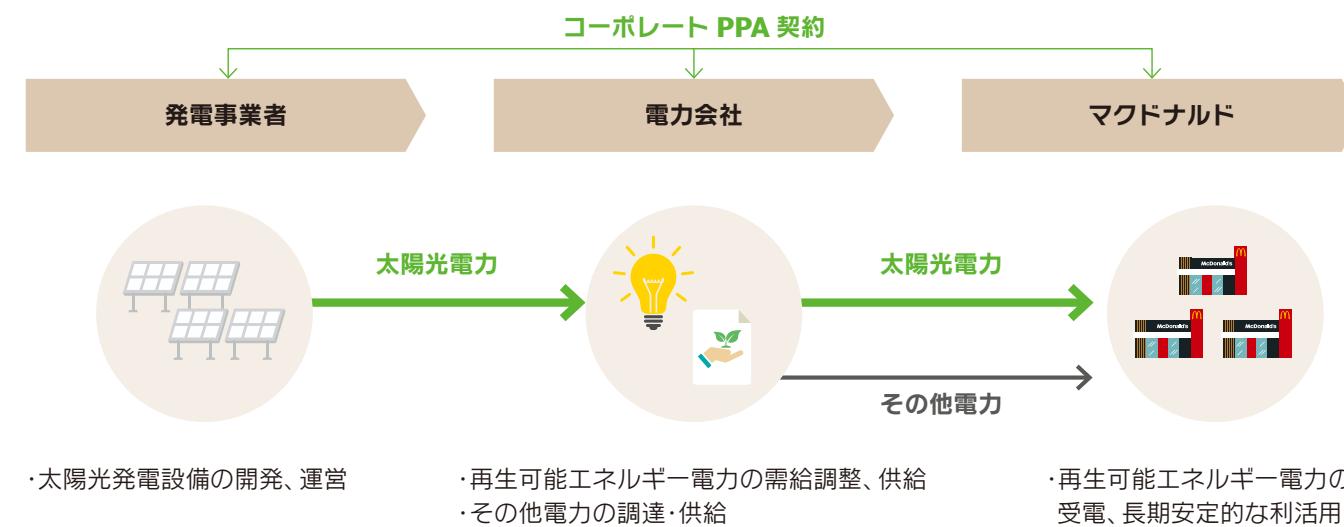
太陽光や水力、地熱などの再生可能エネルギーに由来した電力の導入を進めています。2024年は約520店舗へ導入が完了し、2025年以降も計画的に進めています。また、オフィスにおいては2024年に再生可能エネルギーの調達が100%完了し、温室効果ガスの排出量は実質ゼロを達成しました。



●コーポレートPPAの導入

長期的に再生可能エネルギーを購入するため、発電事業者と直接契約を結ぶ「コーポレートPPA」の導入を進めています。2024年12月に関東エリア73店舗、2025年2月に関西エリア133店舗、全国206店舗で導入しました。

コーポレートPPAサービスによる電力供給イメージ



●太陽光パネル設置店舗の拡大

店舗の屋根を有効活用する太陽光パネルの設置を一部店舗で進めています。省エネ施策を深化させつつ、より環境負荷の低いエネルギーの使用を進めています。



脱炭素に向けた取り組み

省エネルギーに向けた取り組み

店舗において、24時間365日様々な省エネルギーの活動に取り組んでいます。

● プランドメンテナンスシステム (PMC) の導入

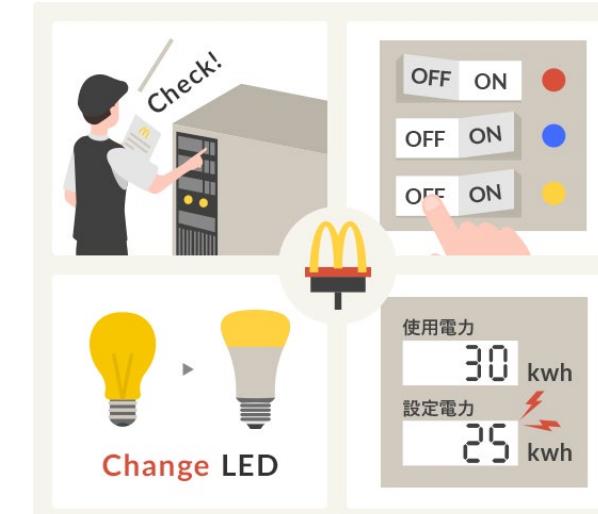
従業員が店舗の機器の点検や清掃を決められたスケジュールに従って実施しています。メンテナンスを誰もができるようにカレンダー化されたシステムを導入することで、機械効率を維持し無駄なエネルギーを削減しています。

● 省エネ機器の計画的な入れ替え

店舗のエアコン・冷凍／冷蔵庫などの機器を、既存の機器よりもエネルギー消費効率の高い機器(省エネ効果のある機器)への計画的な入れ替えを実施しています。

● LED 照明／デマンド機器の設置

環境負荷削減効果の高いLED照明を店舗改装時や入れ替え時に合わせて導入しています。また、リアルタイムで使用電力を測定し一定量を超えると警報を発するデマンド監視装置によって、無駄な電力使用を抑制しています。



物流の効率化

食材・資材運搬時の使用エネルギーを削減する取り組みとして、サプライチェーンにおける配送業務等の平準化・効率化などを実施しています。



店舗における国産木材の活用

林野庁が推進する「ウッド・チエンジ」の趣旨に賛同し、新規出店・改裝・建て替える店舗で、従来の鉄骨から木材へ切り替えた軸組や外装の一部で木材を使用するなど可能な部分で国産木材を積極的に活用しています。2024年12月末までの累計で、軸組に木材を使用した店舗は125店舗、外装に木材を使用した店舗は320店舗となりました。



配達サービスにおけるEVバイクの導入

店舗で商品の配達に使用するバイクをCO₂排出量の少ないEVバイクに切り替えていきます。



EV急速充電器の設置

一部店舗にEV急速充電器を設置しています。充電時の電気は再生可能エネルギーで、CO₂の排出量は実質ゼロとなっています。引き続きCO₂排出量が少ないEV車の普及に向けたインフラ整備に取り組んでいきます。



パッケージ、ハッピーセットのおもちゃ、食品の2R



サステナブル素材への切り替えによるバージンプラスチックの削減とリサイクルを推進しています。



サステナブル素材の活用

2025年末までに「すべてのお客様提供用パッケージ類を、再生可能な素材、リサイクル素材または認証された素材に変更する」「すべてのハッピーセットのおもちゃを再生可能な素材、リサイクル素材または認証された素材など、サステナブルな素材へ移行する」と2つの目標を掲げ、お客様提供用パッケージ類、ハッピーセットのおもちゃにおける、バージンプラスチック^{※1}削減を進めています。また、提供時はお客様にご協力いただき、「簡易包装」を心かけ、お客様の状況やニーズを考えて対応をしています。

※1 化石資源由来の原料を新規に使用したプラスチック

パッケージ類における対応

2024年11月からコールドドリンク用プラスチックカップおよびリッド(ふた)の素材を環境にやさしいバイオマスPP^{※2}およびリサイクルPET^{※3}に変更しました。

2024年12月からは、マックフルーリーの容器をリッドを使わない形状に変更し、スプーンも木製に変更しました。

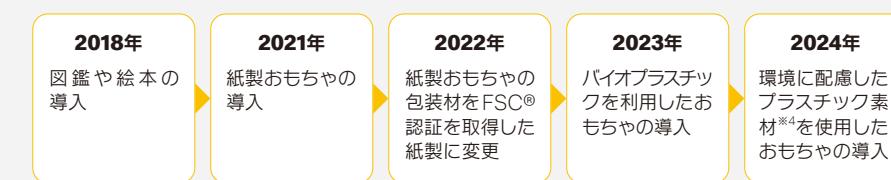
※2 トウモロコシや大豆等を原料とした使用済み食用油由来のプラスチック。マスバランス方式を採用

※3 主に使用済みのペットボトルを回収し、リサイクルにより再び原材料として再利用できるようにしたサステナブル素材



おもちゃにおける対応

2024年は152種類のうち60種類がサステナブルな素材を使用したおもちゃとなりました。



(左)紙製の両面パズル (右)環境に配慮したプラスチック素材を活用したパズルのケース

© 2025 San-X Co., Ltd. All Rights Reserved.

廃棄物の削減、リサイクルの実施

お客様提供用パッケージ類の廃棄物削減、ハッピーセットのおもちゃ・使用済み紙カップのリサイクルを実施しています。食品においても、食品ロス削減(Reduce)、食品リサイクル(Recycle)の2Rに取り組み、不可食部分の資源化や食品廃棄量の削減、食品廃棄による温室効果ガス排出削減を目指しています。

おもちゃリサイクル

ハッピーセットのおもちゃを全国の店舗で回収しリサイクルするプロジェクトを2018年から行っています。子供の時期からリサイクルへの参加や店内で使われている緑色のトレイを見ることは、環境について考えるきっかけづくりに寄与しています。



回収したおもちゃの数
累計 約2,280万個
https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/environment/toy_recycling/

使用済み紙カップのリサイクル

2024年から一部店舗にて、食事後に廃棄される使用済みの紙カップを回収して、店舗で使用するペーパータオルにリサイクルする取り組みを行っています。



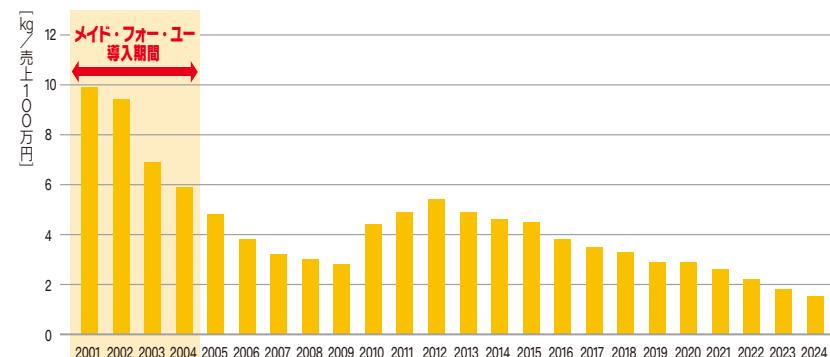
食品の2R

●食品ロス削減(Reduce)

「メイド・フォー・ユー(MFY)」システムの導入

2001年から、マクドナルドでは注文を受けてからバーガー類を調理するオリジナルのシステム「メイド・フォー・ユー(MFY)」を導入しています。お待たせせずにできたおいしさをご提供できると共に、以前の作り置きシステムに比べ、完成品商品の廃棄量が大きく減少しました。

売上100万円あたりの商品廃棄量



食べ残しを減らす取り組み

「食べ残し」による食品ロスの削減を目指して、お客様と共に取り組んでいます。マクドナルドでは様々なメニュー・サイズを提供しており、お客様ご自身で食べ切れる量をお選びいただけます。ドリンクに添える砂糖やコーヒーフレッシュなどのコンディメントにおいても、お客様にお伺いしたうえで必要な量をご提供しています。

食品ロス率

2.3%

※可食部の廃棄量 (kg) ÷ 食品の仕入れ量 (kg) にて算出

●食品リサイクル(Recycle)

資源を無駄にしないよう、店舗から出る食品廃棄物を回収し、食品リサイクル法に定められた優先順位に則り、「飼料化」「肥料化」「バイオガス化」を積極的に進めています。

食品リサイクル率

70.1%

※食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む

フライオイルのリサイクル率

ほぼ100%

※商業施設内の1店舗を除く

フライオイル (廃食油)

ほぼ全店でリサイクル。主に飼料化、工業用油脂やバイオガス化

生ごみ

・東京都の一部店舗で実施。飼料化32店舗、肥料化48店舗、バイオガス化16店舗
・福岡市内の6店舗でバイオガス化

ポテトのあげかず

大阪府、京都市の一部店舗で飼料化を実施。大阪府47店舗、京都市13店舗

コーヒー豆かす

兵庫県姫路市の7店舗でたい肥化。たい肥は、姫路市内のご希望いただいた小中学校へ寄贈、学校活動で活用されています。



- 飼料
- 肥料
- バイオガスなど

 <https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/>



安心でおいしいお食事を

Food Quality & Sourcing



私たちは、食の安全をすべてに優先させるため、「安全・品質・衛生」において世界最高の食品管理システムを目指して、たゆまぬ努力を続けています。安定供給はもちろん環境課題や社会課題の解決に向けサプライヤーと連携して取り組み、栄養バランスに配慮したメニューのご提供やアニマルヘルス＆ウェルフェアにも真摯に取り組んでいます。

Food Quality & Sourcing

20 食品安全

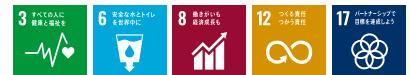
23 お子様向けの商品に対する責任

24 責任ある調達

25 アニマルヘルス & ウェルフェア

食品安全

食品安全に終わりはありません。
安全安心で高品質なお食事を
提供するために歩み続けます。



食品安全戦略

原材料の生産からお客様の手に渡るまで、サプライヤーや専門家と連携し、
様々な基準を満たした商品の提供に取り組んでいます。

食品安全のリスク管理

原材料の生産からお客様に提供されるまで、数々の食品安全のリスクを軽減させるために、サプライヤー品質マネジメントシステム(SQMS)や物流倉庫品質マネジメントプログラム(DQMP)などの厳格な規格を満たしているかを確認しています。

食品安全文化の構築

安全安心な食品を提供する事業者として、すべての従業員が食品安全の考え方、価値観に対する教育を受けています。マクドナルドとの活動を通じて各サプライヤーにおける食品安全文化の醸成を促進し、より強固な仕組みづくりを目指しています。



SQMS*
(サプライヤー品質マネジメントシステム)

SQMS要求事項を満たした
サプライヤーの割合

100%

※GFSI規格要求事項に独自項目を追加した、
さらに厳しい食品安全マネジメントシステム



DQMP
(物流倉庫品質マネジメントプログラム)

第三者による監査で当社の基準を
満たした配送センター数・割合

15センター 100%



店舗の外部衛生監査

外部の検査会社を通じて実施された
監査としての要件を満たした店舗数・
割合

約 3,000 店舗
100%

生産地から店舗までの品質保証体制

お客様へ提供する商品は、生産地から加工工場、物流、店舗での調理までをGFSI認証規格レベルといった国際規格に基づいた独自の品質・食品安全マネジメントシステムによって管理しています。店舗では、PACE、HACCPといった製品の安全性を確保するための衛生管理手法を導入し管理しています。

サプライヤー基本原則

サプライヤーの皆さんに「サプライヤー行動規範」の遵守を求めています。サプライヤーがマクドナルドとパートナーシップを組むための基本原則で、関連法令の遵守、人権、労働環境、環境保全、事業運営の完全性が規定されています。また、行動規範の具体的な内容は「サプライチェーン人権プログラム(SCHR)*」としてまとめられ、それに基づく実行と維持がサプライヤーに求められます。

*2025年1月に、従来のプログラムからSCHRに変更されました。SCHRでは、監査スキームの4項目が実施されます



サプライチェーン人権プログラム (SCHR)

行動規範の着実な実行と維持のため、監査制度を導入したプログラム

労働 安全衛生 環境 企業倫理

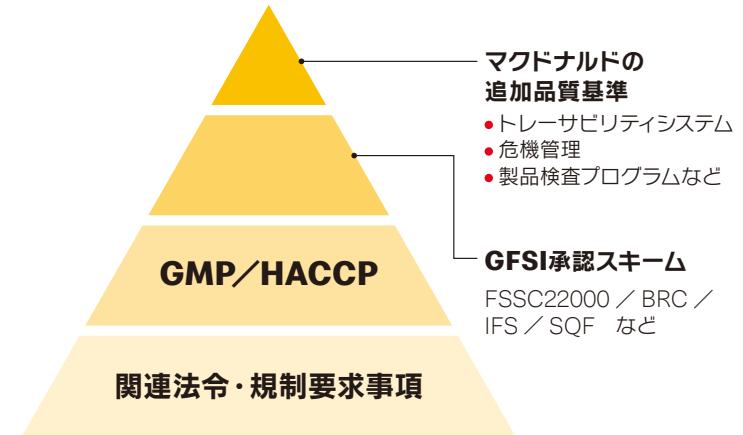
●サプライヤーサミット

マクドナルドの状況や今後の成長プランをサプライヤーの皆さんに共有する“サプライヤーサミット”を毎年開催しています。国内外のサプライヤーと、食品安全、品質、サステナビリティなどの目標を共有・確認し、共に実行することで強い信頼関係を築いています。



食材の製造工程管理

関連法令・規制要求事項を基に、世界食品安全イニシアチブ(GFSI)に準拠した食品安全管理システムにマクドナルドの追加品質基準を加えた、サプライヤー品質マネジメントシステム(SQMS)で、製造工程を管理しています。官能評価、微生物検査、理化学検査など、様々な検証・確認を実施し、品質保証を行っています。



トレーサビリティ

原材料から最終製品までの全工程の生産履歴を追跡できるシステムを持っています。これにより、万が一のトラブルに対して速やかな対応と原因の追求を可能にしています。



Global G.A.P. Plus Add-on^{*1}

農地評価
水質管理
農薬・施肥管理・労働安全

SQMS^{*2}

HACCP (製造)^{*5}
GMP
製品検査プログラム

DQMP^{*3}

HACCP (物流)
GWP・GDP
QIP (品質検査プログラム)

PACE^{*4}

HACCP (店舗)
GMP
SSOP

監査プログラムによるシステムの有効性確認

*1 Global G.A.P. Plus Add-on : 農業生産工程管理 *2 SQMS : サプライヤー品質マネジメントシステム *3 DQMP : 物流倉庫品質マネジメントプログラム *4 PACE : カスタマーファーストとビーフルファーストに根ざした、オペレーション改善およびコンサルティングプラットフォーム *5 HACCP : 危害要因分析重要管理点

店舗の衛生管理

お客様に安心してマクドナルドをご利用いただけるよう、店舗においてもあらゆる面で衛生管理を徹底しています。

店舗の安全・安心を支える取り組み

店舗における食材の管理・調理・販売にいたる衛生管理は私たちにとって果たすべき重要な責任です。原材料の温度管理、調理時の温度計測はもちろんのこと、水質チェックやフライオイルの劣化測定など様々な検査を行い、日々安全性の確認を行っています。

また、従業員が食品安全について正しく理解し実行できるように、各種マニュアルやe-ラーニングによる学習の機会を提供しています。店舗の衛生管理が適切に実行されていることを確認するために、第三者の専門機関による定期的な監査も実施しています。

➡ <https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/sanitation/>



手洗いの徹底

最低1時間に1回、クルーは指からひじまで、丁寧な手洗いを徹底しています。



調理器具の洗浄・消毒

調理器具は定期的に洗浄・消毒し、常に清潔な状態で使用しています。



アルコール消毒の徹底

接触の多いドアの取っ手やお食事スペースなどのアルコール消毒を徹底しています。

デジタルツールによる 一元管理・保存の徹底

店舗での衛生管理、機器の保守点検・清掃などをタブレット端末で管理しています。従来の紙での管理に比べて、一部データが自動で投入されるなど、操作性・正確性が向上しています。



デジタルフードセーフティシステム

国内全店にタブレット端末「デジタルフードセーフティシステム」を導入し、食の安全・安心に特化した取り組みとして毎日「フードセーフティのチェック」を行っています。

タブレット端末とBluetooth対応温度計を用いた食品の温度計測、衛生管理、清潔な厨房環境の維持、調理手順、従業員の行動確認など、30項目を超えるチェックポイントを効率的かつ正確に実施しています。

万が一問題が発生した場合、原因追及のアラートが出され、再計測などその場で解決手段を提示し、速やかな対応を行っています。



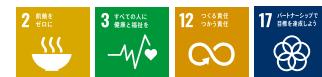
デジタルPMC

メンテナンス計画表(PMC)の管理を紙からタブレット端末へ移行しました。作業結果の入力は簡易化されつつ、店長によるチェックの徹底、マニュアルや実施状況などもすぐに確認することができるようになりました。チェック漏れの防止機能、アラート機能なども実装しているため、従来より早く正確に必要な作業を実行できます。



お子様向けの商品に対する責任

子供たちの健やかな成長を
支えるために、
豊富な選択肢のあるメニューを
提供しています。



※画像はイメージです

より安全で安心な ハッピーセットをご提供するために

ハッピーセットを年間約1億食もご提供する私たちには責任があります。
より安全で安心なハッピーセットを楽しんでいただけるよう取り組んでいます。



栄養バランスへの配慮

ハッピーセットのサイドメニューは、マックフライポテト®だけでなく、えだまめコーンやサイドサラダもお選びいただけます。お子様の成長や食事の機会に合わせ、栄養バランスを考えた選択をしていただけます。

栄養情報の開示

ハッピーセットに限らず、すべての商品のアレルギー・栄養・原産国情報を公式ウェブサイトおよび公式アプリでお知らせしています。また、安全・安心で健康な食事のためにお役立ていただける「栄養バランスチェック」や「アレルギー検索」といったコンテンツをご提供しています。



[https://www.mcdonalds.co.jp/
sustainability/food/allergy_Nutrition/](https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/food/allergy_Nutrition/)

合成香料、合成着色料の除去

ハッピーセットは合成香料、合成着色料を使用していません。また、合成保存料の削減にも取り組んでいます。



●栄養バランスチェック

1日に必要な栄養のうち、マクドナルドの商品がどれだけ補えるか(充足率)をチェックすることができます。管理栄養士による年代別アドバイスや栄養素の説明もあり、健康的な毎日にお役立ていただける食育コンテンツです。



責任ある調達

地球環境や生物多様性、サプライチェーンで働く人々のことを考え、サプライヤーや生産者と共に責任ある調達に取り組んでいます。



持続可能な食材・資材の調達

森林、水資源、生態系に配慮した、
サステナブルな原材料の調達を進めています。

FSC®認証(森林保全)

お客様向け紙製容器包装類、トレイマットおよび木製カトラリー類は、すべてFSC認証を取得した紙・木材を使用しています。

詳しくはFSCジャパンのHPをご覧ください



MSC認証(水産資源保全)

フレオフィッシュの白身魚は、
MSC認証を取得し、持続可能で
環境に配慮した漁業で獲られた
スケソウダラを使用しています。

詳しくはMSCジャパンのHPをご覧ください



MSC-C-57384

レインフォレスト・アライアンス認証

(持続可能な農業)

お客様に提供しているコーヒーは、森林や生態系を守り、労働者に適切な労働条件を提供するレインフォレスト・アライアンス認証を取得した農園が栽培するコーヒー豆を100%使用しています。

詳しくはレインフォレスト・アライアンスの
HPをご覧ください



RSPO認証

(持続可能なパーム油の調達)

フレオイルとして使用される
パーム油はRSPO認証を取得して
います。パーム油は環境や地域
社会に配慮して生産されないと、
熱帯雨林や様々な生物の大規模
な消失に直接影響を及ぼします。

※マスバランス認証



ビーフ

森林破壊を伴わないサプライ
チェーンによるビーフの調達を
目指しています。グローバルでは
98.8%*まで達成できています。

*2023年の数値



大豆

チキンの生育に必要となる飼料
大豆については、責任ある大豆
に関する円卓会議(RTRS)認証
のクレジットを購入しています。



アニマルヘルス & ウエルフェア

動物の健康と福祉に、
より配慮した調達を目指して
グローバルマクドナルド全体で
取り組んでいます。



グローバルマクドナルドの
アニマルヘルス & ウエルフェアの
取り組みは[こちら](#)をご覧ください



※画像はイメージです

農場や食肉処理施設での要求事項の遵守

マクドナルドは原料原産地の食肉処理場に対してアニマルヘルス & ウエルフェア(AHW)に関する要求事項を遵守するよう求めています。AHWの監査では牛／鶏／豚の性質や食肉処理工程に応じて家畜が人道的な扱いのうえで屠畜(食肉処理)されているかを確認しています。これらの監査で基準を満たした食肉処理場は承認供給者としてApproved Supplier List(ASL)に掲載され、マクドナルドのサプライヤーはASLに掲載された食肉処理場のみから原料肉を調達することができます。日本マクドナルドで使用しているビーフ・チキン・ポークは、こうしたマクドナルドの調達基準に即したサプライチェーンを通じて調達されています。



ビーフ

飼育から食肉に加工されるまで、動物の健康と福祉に配慮しています。日本マクドナルド向け製品では、抗生物質の使用に関するポリシーに従っています。



チキン

より良い環境で飼育された鶏の調達に取り組んでいます。日本マクドナルド向け製品では、抗生物質の使用に関するポリシーに従っています。



ポーク

より良い環境で飼育された豚の調達に取り組んでいます。豚へのストレスを最小限にする配慮がなされた処理場からのみ調達しています。

 <https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/people/>



働きがいをすべての人に

Jobs, Inclusion & Empowerment

持続可能な未来の鍵となるのは、「ピープル」であると考えています。

誰もがいきいきと活躍できる、安全でインクルーシブな職場環境づくりを全力で進めています。

Jobs, Inclusion & Empowerment

27 ピープルビジョン

28 ダイバーシティ・エクイティ &
インクルージョン(DE&I)

31 人材育成とキャリア

33 安全で尊重しあえるインクルーシブ
な職場環境

ピープルビジョン



創業者レイ・A・クロックの言葉にあるとおり、「私たちはハンバーガービジネスではない、“ピープルビジネス”だ」と考えています。



マクドナルドのピープルに対する考え方

お客様だけではなく、働く人々にも、笑顔になってほしいから。
“ベストな雇用主”であることは、マクドナルドの大きな責任だと考えています。
すべての従業員に成長の機会を提供し、誰もが活躍できる働き方の推進や職場環境の実現を目指しています。

People Vision(ピープルビジョン)

「People Vision」は、マクドナルドが企業として、マクドナルドで働くすべての人々に対して持っているグローバル共通のビジョンです。
「People Vision」を実現するために、マクドナルドが全従業員に向けて約束していること。それが「People Promise(ピープルプロミス)」です。成長の機会を提供し、能力を高め、リーダーを育て、功績に報いることで、マクドナルドで働くすべての人を尊重しています。



People Vision

ピープルビジョン

マクドナルドは、
世界中どの街でも、
ベストな雇用主となる

People Promise

ピープルプロミス

マクドナルドは
従業員の皆さんとその成長および貢献を、
価値のあるものとして大切にします

ダイバーシティ・エクイティ & インクルージョン (DE&I)



DE&Iの推進

多様な人材が輝くためには、様々な働き方のニーズに応えなければなりません。従業員の声に耳を傾け、制度の整備や見直しをすることはもちろん、制度をいかに活用しやすいものにするかが大切であると考えています。利用する従業員だけではなく、同僚や上司の理解を促進するため、セミナーや社内ワークショップを実施して「インクルーシブな職場環境の構築のために何ができるか」を従業員全員が考える場を設けています。



●ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン 推進のための「オープンドア/チーム」

オープンドア/チームは、「個性」を尊重し、孤立を避け、相互に補い合い、受け入れ合う「オープン」な組織づくりをサポートするチームです。トップマネジメントがスポンサーとなり、全社各部門の有志が多様な人材の活躍推進に向け

た制度や仕組みの提案、社内意識調査を行っています。また、大学や他企業、関連団体と連携した意識改革のためのセミナーやワークショップなども開催し、社内外でDE&Iを推進しています。



多様な人材の活躍

全国の店舗では、性別や年齢、国籍の異なる多様なクルーが働いています。誰にとっても働きやすく、働きがいのある職場づくりを推進し、多くの人に働く機会を提供しています。

●若い世代

若い世代の方たちに対して、働く機会、成長の機会を積極的に提供しています。日本で働く約21万人のクルーのうち、6割以上が24歳以下です。世代や国籍など様々なバックグラウンドを持つ仲間と一緒に働くことは、非常に価値のある経験となり、将来活かせるポータブルスキルも得ることができます。現在、マクドナルドのアルバイト卒業者約300万人が社会で活躍されています。また、NPO法人、教育委員会などと連携し若者就労支援のインターンシップを実施しています。

若い世代のクルー（24歳以下）

約140,000人



●主婦・主夫クルー

5人に1人のクルーが主婦・主夫です。週1回2時間から働くことができる短時間勤務制度や週ごとに調整を行うシフト制度など、主婦・主夫の方が働きやすい環境と制度が整っています。これによりご家庭の事情に合わせ柔軟かつ長期にわたって働くことが可能です。

●プレミアムエイジ

社会経験を通じて様々な知識やスキルを得た60歳以上の方たちが活躍しています。年齢にとらわれず、一人ひとりが自分らしくのびのびと働いています。

プレミアムエイジクルー（60歳以上）

約13,000人



全国クルー人数

約210,000人

※クルー人数はいずれも
直営店舗・フランチャイズ店舗合計

●外国人

留学生を中心とした100カ国以上の外国籍のクルーが活躍しています。多言語化したタブレット教材の提供など、個々の強みを活かして働いていただける環境を整えています。

外国人クルー

約21,000人



●チャレンジクルー（障がい者）

障がいのある方もクルーとして活躍しています。オリエンテーションや人材育成の教材はユニバーサルデザインを採用するなど、誰にとっても働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

障がい者雇用比率

2.5%

※対象者は日本マクドナルド株式会社社員およびクルー

クルーの髪色自由化

2024年3月、クルーのアピアランスポリシーを改訂し、髪色を自由化しました。

「髪色」に関する制限をなくすこと、クルーが髪色を自己表現の一つとして自分らしい働き方をしてほしい、自分らしく働くことによってさらにポジティブに仕事に取り組んでほしい。そして、一人ひとりに合った価値観を尊重しながらお客様に快適な環境でお食事をしていただける店舗運営に努めていこうという、様々な想いを込めて実現しました。

アピアランスポリシー（一部抜粋）

- ・清潔感があり、お客様へ不快感を与えないか
- ・フードセーフティに影響がないか
- ・多様性を大切にしているか



多様な人材の活躍

女性活躍の推進

「オープンドア/チーム」が中心となり、女性社員のキャリア支援、ネットワーキング、リーダーシップ開発などの活動を通じて、女性の活躍を推進しています。

● OPEN DOOR/ Woman's Café

女性従業員同士のネットワーク構築のためのコミュニケーション機会として、キャリア不安の解消や女性の健康リテラシーの向上など、自由なコミュニケーションの場を提供しています。

● 関連企業やサプライチェーン全体でのDE&Iの取り組み

社内での実践だけではなく、関連企業やサプライチェーン全体で、DE&Iの理解と意識の向上を目指した取り組みを実施しています。サプライヤーサミットでのパネルディスカッションの開催、約100社のサプライヤーに向けた促進活動の共有、サプライヤー主導で実施された理解度の調査など継続的に取り組みを行っています。また、女性のフランチャイズオーナーが集まる「女性オーナーの会」なども行っています。

女性店長
比率
34.2%

女性役員
比率
27.8%

女性管理職
比率
25.3%

※ 対象者は日本マクドナルド株式会社社員



「なでしこ銘柄」に初選定

2024年3月、経済産業省と東京証券取引所が女性活躍推進に優れた企業を選定する「なでしこ銘柄」に初めて選定されました。



柔軟な働き方を支援する仕組み・制度

社員一人ひとりに合ったワークライフバランスを実現できるよう、ライフイベントも考慮した多様な働き方をサポートする制度の充実および活用促進に取り組んでいます。

● 勤務制度

オフィススタッフはフレックスタイム制と在宅勤務制度、店舗スタッフには変形労働時間勤務制度を採用しています。業務の繁忙期やプライベートに合わせて働く時間・休日を柔軟に変更でき、ワークライフバランスを保ちながら働くことが可能です。さらに、より柔軟に働くことができるよう、「店長フレックスタイム制度」も導入しています。

● 地域社員制度(直営店舗)

柔軟な働き方を可能にする地域社員制度を導入しています。自身のライフスタイルに合わせた、通勤可能な地域でのキャリアアップを目指すことができます。

● サポート店長制度(直営店舗)

店長が、産休・育休・介護などのために休職する場合、サポート店長が店舗運営を支援することで、店長が適切なワークライフバランスを維持できる職場環境を実現しました。

● 出産・育児・介護支援

様々な支援制度により、出産や育児、介護といったライフイベントの変化があつても、キャリアを諦めることなく、最大限の力を発揮して活躍いただける環境づくりを行っています。また、「男性の育児参加」は不可欠であると考えています。育休対象者の問い合わせ窓口を設け、「育児休業サポートブック」を配布するなど制度を取得しやすい環境づくりに努めています。



離職率※1
7.3%

全社員
月間平均残業時間※1
18.7 時間

有給休暇取得率※1
60.6%

育児休業取得後の
復帰率※1
100%

男性の
育児休業取得率※2
61.5%

※1 対象者は日本マクドナルド株式会社社員 ※2 対象者は日本マクドナルド株式会社常時雇用労働者

人材育成とキャリア



マクドナルドで働く
すべての人々に「Feel-Good」な
瞬間をたくさん感じていただける
働きがいのある職場づくり、
“Feel Good Place to Work”
を目指しています。



マクドナルドの人材育成

“Feel Good Place to Work”の実現のためには、
「一人ひとりがポテンシャルを発揮すること」「誇りを持って働くこと」「成長を感じられること」が重要だと考えています。
これらの環境づくりを行うため、人材育成の様々な取り組みを行っています。

タレントマネジメント

継続的な人材育成のために、戦略的な人材配置や適材適所、ジョブローテーションなどを行い、後継者育成に取り組んでいます。

ALL JAPAN CREW CONTEST(AJCC)

クルーの日々の貢献をたたえたい、誇りをもって働いてほしいという願いを込めて、1977年から毎年AJCCを開催しています。AJCCは、店舗やクルーにとってまさに甲子園ともいえます。毎年4月から店内戦、12月から全国戦を開催し、技術やサービスの向上はもちろん、モチベーションや店舗の団結力につながり、クルー一人ひとりのさらなる成長に寄与しています。



教育機関 (ハンバーガー大学)

ハンバーガー大学は、働くすべての人々が、学び、成長し続ける企業であるための専門教育機関です。全世界でも9カ国と限られており、そのうちの一つが東京にあります。日本にハンバーガー大学が設立されたのは、国内第1号店である銀座三越店のオープンよりも1カ月早い1971年6月であり、これは“人材教育が何よりも重要だ”という姿勢の表れます。毎年、多くの社員やクルーがクラスを受講し、トレーニングツールの活用を通じた学びを得ています。クラスなどで学んだリーダーシップやチームビルディング、リレーションシップ構築の知識やスキルは、様々な職種や業務に留まらず私生活においても活用することができる生涯にわたるスキルです。

1年間にハンバーガー大学の授業を受講する社員およびクルー

約14,657人

※2024年12月現在

https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/people/hamburger_university/

キャリア開発の推進

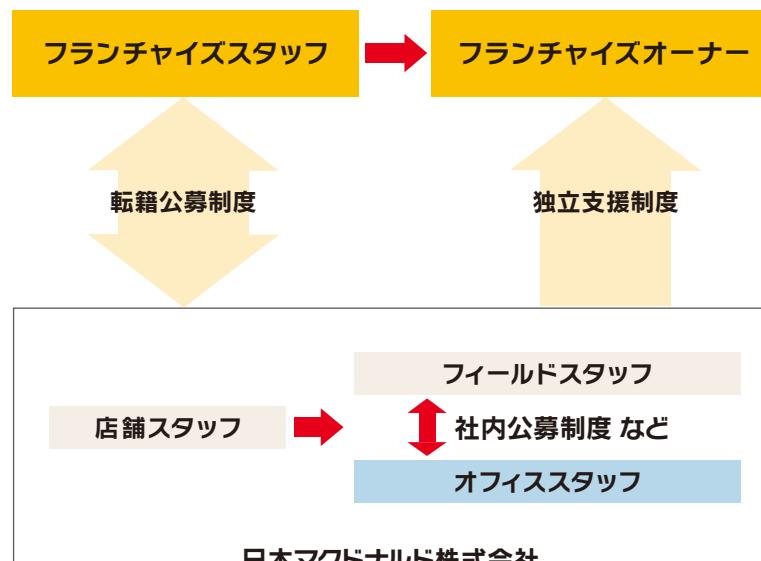
「UP TO YOU あなた次第で、どこまでも成長できる*」という、創業者レイ・A・クロックの言葉は、企業文化として根付いています。社歴や年齢に関わらず、一人ひとりが自分のキャリアを考え、挑戦し続けることが、マクドナルドの成長を支えていると考えています。

*マクドナルドのキャリア選択は多岐にわたり、努力次第でどこまでも成長できるという方針



多様なキャリア選択

自分らしいキャリアを築けるよう、様々なキャリア選択が可能です。社内公募制度やフランチャイズへの転籍公募制度、フランチャイズオーナーへの独立支援などの制度やプログラムを用意しています。また、従業員がこれらの機会についてより広く知り、理解を深めることができます。「キャリアアップツク」を配布しており、新たなチャレンジに挑む社員の数は年々増加しています。



●社内公募制度

会社が必要としているポジションを社員に公開し、応募者の中からそのポジションに適した人材を登用しています。対象となるポジションの部署や職位は様々で、適宜設定される応募資格や条件を満たす社員は誰でも応募できます。目指すキャリアの実現に向けて自らチャレンジし経験を積む機会を提供することで、社員のキャリア形成支援や最適な人材配置の実現に努めています。

●キャリアチャレンジ公募制度

若手社員の主体的なキャリアデザインをサポートする施策の一つとして、新卒入社3年以内の直営店舗社員を対象に、2022年からキャリアチャレンジ公募制度を導入しました。2年間、店舗運営を支えるオフィススタッフとしての勤務を通じて、その後の自身のキャリアに対する視野を広げ成長することを目的としています。

成長できる職場

クルーとして店舗で仲間と一緒に働く経験を通して、コミュニケーション力、協調性、リーダーシップなどライフステージの各段階で活躍し続けるために求められるスキルを誰でも自然と身に付けることができます。また、独自のトレーニングプログラムを受講することで、経験値だけではなく知識としても学びが定着していきます。このようにして身に付けた力は、

クルーならではの強みであり、クルー経験者が生涯を通じて幅広いステージで活躍できる秘訣となっています。

オフィススタッフも同様に、業務を通じてスキルを高めると共に、ハンバーガー大学のクラスや選択型研修を受講し、生涯活かせるポータブルスキルを身に付けることができます。



安全で尊重しあえるインクルーシブな職場環境



Global Brand Standards

「ハラスメント、差別、報復の防止」「職場での暴力行為の防止」

「店舗スタッフからのフィードバック」「健康と安全」の4つを重点分野として定め、

従業員に対して安全で敬意を持ってコミュニケーションされるインクルーシブな職場環境を提供することを約束しています。
この指針が、いつでも、どの場所でも、すべての従業員に提供されていることが重要です。

指針遵守のために

4つの重点項目や具体的な取り組み内容を従業員に理解していただくため、「Brand Standards PLAY BOOK」の配布やハラスメント・差別・報復を防止するオリエンテーション、トレーニングを実施しています。仮にハラスメントや差別を受けてしまった時にはコンプライアンスホットラインなどのプログラムを利用できます。

また、常に安全で安心できる職場環境を提供できるよう、サーベイ、ストレスチェック、Putting People first visit(PPFV)などを実施し、課題の把握や従業員の意見に耳を傾けています。店舗や部門だけでは解決できない課題は、関係部門に共有され安全衛生委員会などで具体的な対応策を検討・実行しています。



● PPFVの実施

店舗(職場)における安全確認のプロセスの一つとして、最低年1回、右図にある3つの要素の基準を満たしているかを診断、確認する PPFV(Putting People first visit)を実施しています。

重要項目の不合格または総合スコアが80%未満の場合は、期限以内に改善が行われているか再診や追加のサポートを実施しています。

PPFVの確認項目



法律に関する 重要な項目

- ・勤務時間に対する適切な賃金
- ・適切な休憩時間
- ・クルーの雇用関係書類の適切な保管
- ・法律と就業規則に沿った18歳以下の採用・就業



Global Brand Standards

- ・ハラスメント、差別の禁止
- ・暴力の防止
- ・ピープルサーベイの実施
- ・オリエンテーションの実施
- ・適切な外国人雇用・勤務



組織・制度と キャリア開発

- ・有給休暇の取得
- ・貢献に応じた賃金提供
- ・柔軟なスケジュール
- ・福利厚生
- ・ハンバーガー大学カリキュラム・クレートレーニングの活用

https://www.mcdonalds.co.jp/sustainability/local/



地域の仲間にサポートを

Community Connection

“私たちをいつも支えてくださっている地域の皆さまへお返しをする義務がある”。
私たちのすべての活動は、マクドナルド創業者であるレイ・A・クロックのこの言葉を原点とし、
コミュニティの一員として子供たちの幸せな未来、
そしてお客様や地域・社会の皆さまの笑顔を第一に考え取り組んでいます。

Community Connection

35 ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援 37 地域コミュニティと連携した活動
36 キッズスポーツ支援 38 教育支援

ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援

マクドナルドは共に助け合う社会を目指したチャリティ文化の醸成と「公益財団法人ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン(DMHC)」の支援などを通じて“病気の子供とその家族”を笑顔にする活動に取り組んでいます。



ドナルド・マクドナルド・ハウス(DMH)

DMHは、自宅から遠く離れた病院に入院する子供とご家族のための滞在施設です。“第二の我が家”をコンセプトに病院のすぐそばに建てられており、2024年12月現在、全国に12カ所あります。日本マクドナルドはDMHを設立当初から継続的に支援しています。多くの方たちが気軽にチャリティに参加いただけるように、全店舗に設置した募金箱、募金付きクーポン、モバイルオーダーからの募金など、様々な方法で募金を受け付けています。



お客様から募金いただいたDMHC支援総額(2024年)

158,157,652円

※店頭募金、募金付きクーポンによる募金、モバイルオーダーからの募金を含む

お寄せいただいた募金は、すべてDMHCへ寄付させていただいており、ハウスの運営や建設などに使われています。



●青いマックの日(マックハッピーデー)

2024年10月20日(日)にチャリティ活動“青いマックの日”を実施し、青いドリンクカップ・ペーパーバッグの提供や店舗の装飾を行い、DMHC支援を呼びかけました。多くの方にご参加いただき、過去最高額となる募金が集まりました。期間中にご購入いただいたハッピーセット1つに付き、50円をDMHCへ寄付しています。

青いマックの日(マックハッピーデー) 募金・寄付総額

105,009,725円

※10月1日～31日のハッピーセット販売数に応じた寄付、店頭募金、募金付きクーポンによる募金、モバイルオーダーからの募金を含む

●マラソンを通じたDMHC支援

2024年3月に開催された東京マラソン2024で、DMHC支援のために“Team DMHC”ランナー約1,000人が参加しました。約400人のマクドナルドスタッフ、ビジネスパートナーが応援団を結成し、沿道から“Team DMHC”ランナーに声援を送りました。また、マラソンを通じたDMHC支援が全国に広がっており、大阪・神戸・福岡で開催されたマラソン大会にも、“Team DMHC”ランナーが参加しました。



CHARITY
TOKYO MARATHON 2024

DMHCは東京マラソン2024チャリティの寄付先団体です。

●スマイルソックス募金

学童野球球児・サッカーボー少年少女・保護者・チーム関係者が、病気と向き合う同じ年頃の子供たちへの想いを込めて、全国大会で「スマイルソックス募金」に協力してくださいました。また、学童野球都道府県大会や全国各地で行われているイベント会場でも「スマイルソックス募金」を実施しています。



●プロ野球 DMHC応援ゲーム

DMHC支援の呼びかけを行なう、プロ野球「DMHC応援ゲーム」を2024年に2回開催しました。DMHの近くに本拠地を構える球団と連携し、DMH利用者による始球式や会場での募金活動を行いました。



●100万人のクラシックライブ

赤ちゃんからお年寄りまで、あらゆる人の日常に、音楽の感動を届けたい「100万人のクラシックライブ」と一緒に全国各地のイオンモール約30カ所でDMHC支援の演奏をお届けしました。



キッズスポーツ支援

子供たちの心と体の健全な成長を願って、スポーツを楽しむ子供たちを支援しています。

また、経験有無に関わらず、スポーツを子供たちに楽しんでいただく体験会やイベントを実施しています。



バスケットボール

マクドナルド全国ミニバスケットボール大会

小学生年代の子供たちに男女を問わずなじみの深いバスケットボール。小学生年代対象の「マクドナルド全国ミニバスケットボール大会」を2023年からサポートしています。より多くの子供たちにバスケットボールを楽しんでもらいたいと考え、全国大会の会場に「体験アトラクション」を設け、小さなお子様から大人まで幅広い世代の方々にバスケットボールを体験していただきました。

第55回マクドナルド 全国ミニバスケットボール大会

全国約 **8,340** チーム



野球

高円宮賜杯全日本学童軟式野球大会

マクドナルド・トーナメント

“小学生の甲子園”とも称される歴史ある大会を1986年からサポートしています。2024年8月の全国大会は、明治神宮野球場で開会式が実施され、全チームによる入場行進が行われました。2024年も支援活動の一環として、小冊子『野球プレーヤーブック2024』を大会登録チームに所属する選手約39万人に配布しました。また、全国大会開会式後には、明治神宮野球場にて「野球あそぼー」を開催し「うつ」「なげる」「はしる」を通して、多くの子供たちに野球の楽しさを体験いただきました。

高円宮賜杯 全日本学童軟式野球大会

マクドナルド・トーナメント

全国約 **10,000** チーム 支援 児童約 **39** 万人

※2024年度



サッカー

JFA 全日本 U-12 サッカー選手権大会

12歳以下の選手で構成される全国のチームが出場を目指し、数多くの国内外で活躍するプロサッカー選手を輩出している日本最大規模の小学生サッカー大会を、2011年からサポートしています。2024年も支援活動の一環として、小冊子『サッカープレーヤーブック2024』を大会登録チームに所属する選手約36万人に配布しました。また、全国大会の会場において、「ボールを蹴る」ことで手軽にできるアトラクションを実施しました。選手以外にも多くの子供たちが楽しみながらサッカーの基本となる「ボールを蹴る」ことを体験してくれました。

JFA 全日本 U-12 サッカー選手権大会

全国約 **8,200** チーム 支援 児童約 **36** 万人



マクドナルドフレンドリーカップ

より多くの選手にも出場機会をつくり、仲間たちと交流を深めてほしいとの想いから、「マクドナルド フレンドリーカップ」を2019年から開催しています。特別にスマイルソックスを履いて出場することをJFA(日本サッカー協会)に認めていただいており、選手が病気と向き合っている子供たちを応援してプレーしています。

地域コミュニティと連携した活動

“あなたの街と共にあるマクドナルド”として、
安全で安心な活きある街づくりを目指し、地域に貢献する活動を行っています。



安全安心を守る取り組み

地域の警察本部などと協力し、子供たちの安全を守るための様々な活動を行っています。マクドナルド店舗は、子供が危険に遭遇した時や困った時に駆け込んで助けを求めることができる「子ども110番の家」として登録されています。

全国交通安全運動などの期間中には、各警察本部と連携した「防犯教室」や「交通安全教室」を開催し、店舗のデジタル掲示板では「地域の安全・安心」を呼びかける動画を掲出しています。また、地域の教育委員会や警察本部などを通じて全国の新小学生1年生に「安全笛」を配布していただきました。



「子ども110番の家」実施店舗数
2,420店舗

※2024年12月現在



安全笛贈呈数(2024年)
計775,700個

※安全笛の配布は2024年で終了しました。

子育て支援

国と地方自治体が推進する「子育て支援パスポート事業」に協力しています。「子育て支援パスポート」をご提示いただいたお客様にチーズバーガーのハッピーセットを割引価格でご提供しています。



子育て支援におけるハッピーセット販売数(2024年)

359,161セット

子ども食堂

地域コミュニティの一員として、ご要望いただいた子ども食堂や支援団体の皆さまと連携したサポートを一部エリアで行っています。

災害支援募金

大規模な災害があきた際には、義援金店頭募金や寄付を実施し、被災された方々の救援や支援に努めています。令和6年能登半島地震災害では、1月に全国の店舗で義援金の店舗募金活動を実施しました。7月には、「がんばろう 石川」をキーワードに石川県の全店舗で復興支援募金を実施し、集まった募金(約280万円)は全額石川県に寄付させていただきました。



令和6年能登半島地震災害義援金

日本マクドナルド寄付額

2,000,000円

お客様から寄せられた募金額

18,078,335円

※1月4日～31日、全国の店舗にて実施
※店舗によって一部実施期間が異なります

教育支援

子供たちの笑顔をより豊かにするために、様々な学びの機会を提供しています。



SDGs 授業

地球や社会のために「自分に何ができるのか」を考える機会につなげてほしいという願いを込めて、小学校高学年を対象にSDGsの出前授業を一部地域で実施しています。これまで約1,300人[※]の児童に受講いただきました。

近隣店舗のスタッフがマクドナルドの取り組みを紹介し、児童たちには「地球のためにできること」について考えていただくプログラムとなっています。

※2024年12月末現在



マクドナルドラジオ大学[®]

「移民や難民」の方々が教授となって、マクドナルド店内で特設サイトにアクセスして講義を聴く「マクドナルドラジオ大学」。六本木、鳥取に続き、2024年は青森県弘前市の4店舗で開催しました。演出家／アーティストの高山明氏を中心としたPort B(ポルト・ビー)や美術館／博物館と連携し、お食事をしながら、世界と繋がる「学び」や「発見」をお届けする取り組みです。

マクドナルドは誰にでも開かれた場所であり、多様な方たちの存在、想い、背景、アイデンティティを知ることができる場所、大人も子供も、外国人も日本人も、色々な方たちを受け入れられる場所であるということを感じていただけるプログラムです。



食育支援

「子供たちに楽しく食べる喜びや食に関する正しい知識と習慣を伝えたい」。2005年に開発した小学生向けオリジナル教材「食育の時間」からはじめり、以降「食」を提供する企業の責務として継続して教育現場の食育授業を支援しています。現在ウェブサイトで公開している「食育の時間+(プラス)」は、正しい手洗いや衛生管理、SDGs教育にもなる食品ロスなど、食にまつわる7つの基本が学べる教材で、全国の教育現場でご活用いただいているいます。

家庭でも食育を学ぶ機会を増やしていただきたいと考え、夏休み期間には「自由研究特設サイト」を毎年公開しています。本教材を活用して完成できる自由研究フォーマットに加え、生活習慣絵日記を提供しています。



ハロードナルド！

未就学児と小学校低学年を対象として、子供たちの日常生活に必要なルールやマナーを伝えるプログラムを実施しています。

「交通」「防犯」「SDGs」の3つのプログラムを訪問またはオンラインで、ドナルド・マクドナルドと一緒に分かりやすく楽しく学ぶことができます。



2024年 DATA

Our Planet

環境データ

エネルギー使用状況 & CO₂排出状況

全店の種別エネルギー使用状況

電気
65,057 万kWh/年
対前年比+0.6%

ガス（都市ガス換算）
3,026 万m³/年
対前年比+3.4%

水道
506.6 万t/年
対前年比+4.5%

全店のエネルギー使用状況 & CO₂排出量

再生可能エネルギーの割合
15.5%
原油換算値
203,622 キロリットル/年
対前年比+1.1%

原単位原油換算値
0.2274 キロリットル/千レジカウント
※原単位分母：千レジカウント

CO₂排出量
314,268 t-CO₂/年
対前年比▲5.2%
101.8 t-CO₂/店舗
対前年比▲6.3%

お客様千人あたりの種別エネルギー使用状況

電気
427.4 kWh/千人
対前年比▲3.1%

ガス（都市ガス換算）
19.9 m³/千人
対前年比▲0.3%

水道
3.3 t/千人
対前年比▲0.2%

廃棄物発生状況

全店の食品・容器包装廃棄物量

全体
164.6 千t/年
対前年比+2.8%

食品
50.8 千t/年
対前年比+1.8%
食品廃棄物の割合
30.9%

食品リサイクル率※
70.1%
対前年比+1.5%

※食品リサイクル定期報告に基づく発生抑制を含む

紙類
43.0 千t/年
対前年比+3.9%

プラスチック類
5.8 千t/年
対前年比▲3.3%

梱包材など
64.9 千t/年
対前年比+3.3%

売上100万円あたりの食品・容器包装廃棄物量

全体
203.0 kg/百万円
対前年比▲3.3%

食品
62.7 kg/百万円
対前年比▲4.1%

食品リサイクル法に基づくファーストフード店の
発生抑制目標値83.3kg/百万円を下回っています。

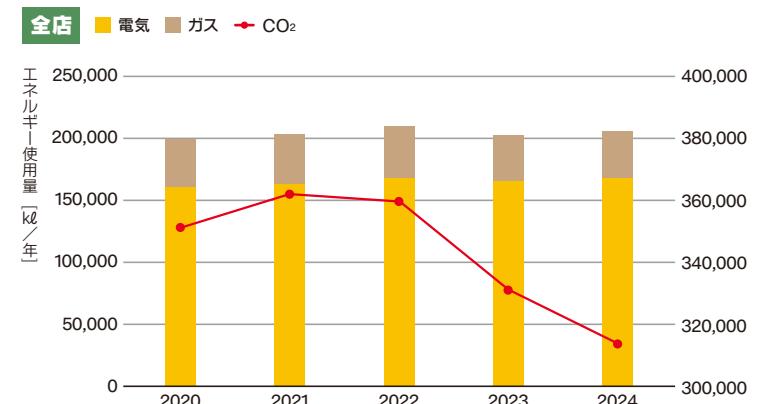
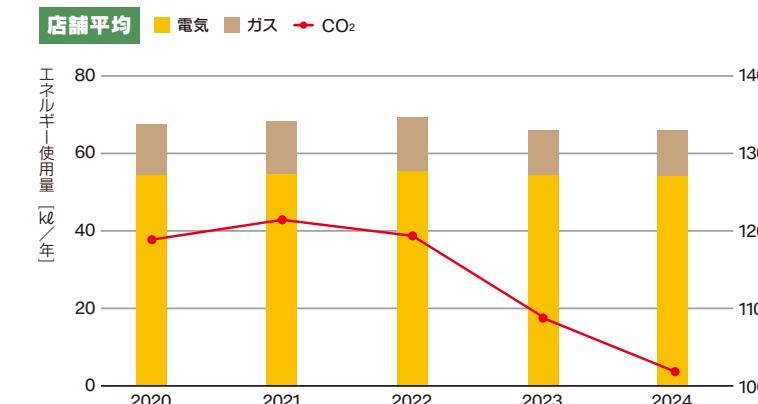
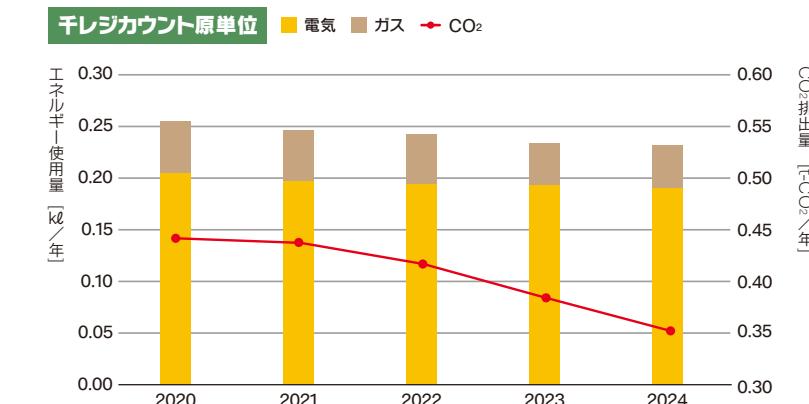
紙類
53.0 kg/百万円
対前年比▲2.6%

プラスチック類
7.2 kg/百万円
対前年比▲7.7%

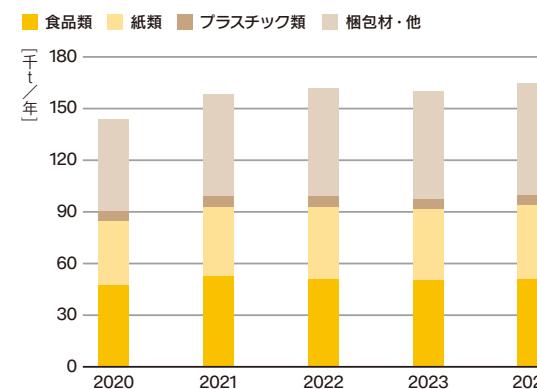
梱包材など
80.0 kg/百万円
対前年比▲2.9%

Our Planet

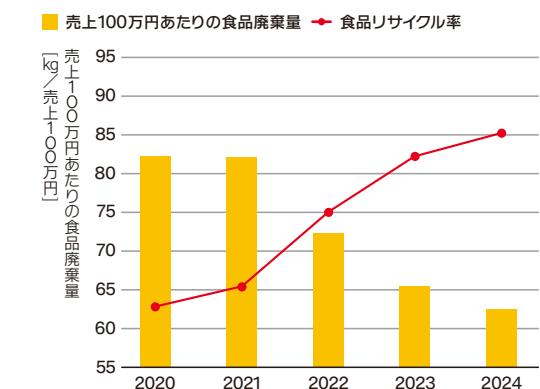
環境データ推移

エネルギー使用量 & CO₂排出量エネルギー使用量 & CO₂排出量エネルギー使用量 & CO₂排出量

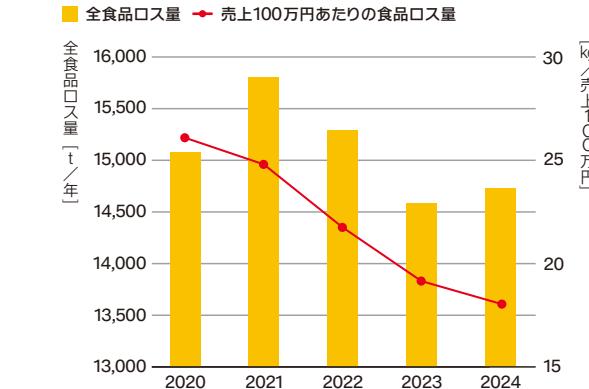
全店廃棄物排出量



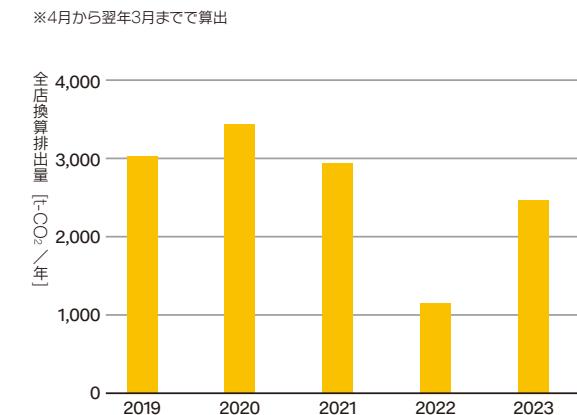
売上100万円あたりの食品廃棄量 & 食品リサイクル率



全食品ロス量 & 売上100万円あたりの食品ロス量



全店フロン排出量



Food Quality & Sourcing

食品安全



SQMS

(サプライヤー品質マネジメントシステム)
GFSI規格要求事項に独自項目を追加した、
さらに厳しい食品安全マネジメントシステム
の要求事項を満たしたサプライヤーの割合

100%



DQMP

(物流倉庫品質
マネジメントプログラム)

第三者による監査を実施し、当社の基
準を満たした配送センター数・割合

15センター 100%



中毒の
集団発生件数
0件



店舗の外部衛生監査

外部の検査会社を通じて実施された監
査としての要件を満たした店舗数・割合

約3,000店舗 100%



食品安全にかかる重大な違反

食品安全監査機関から
重大な違反を受けた店舗数・割合

0店舗 0%

責任ある調達



FSC®認証(森林保全)

お客様向け紙製容器包装類、
トレイマットおよび木製カト
ラリー類のFSC認証取得率

100%



MSC認証(水産資源保全)

MSC認証取得漁業で獲られ
たフレオフィッシュの白身魚
の割合

100%



ビーフ

森林破壊を伴わないサブラ
イチエンによる調達率

98.8%
※マクドナルドグローバルの
数値 (2023年)レインフォレスト・
アライアンス認証
(持続可能な農業)

コーヒー豆のレインフォ
レスト・アライアンス認証
取得率

100%

RSPO認証
(持続可能なバーム油の調達)

フライオイルのRSPO認証取
得率

100%

※マスバランス認証



大豆

チキンの生育用の飼料大豆
におけるRTRS認証のク
レジットの購入率

100%

※責任ある大豆に関する円卓会議

Jobs, Inclusion & Empowerment

直営店舗数

787店舗

フランチャイズ店舗数

2,201店舗

全社員数(正社員)

2,693人

障がい者雇用比率^{※2}

2.5%

従業員エンゲージメント^{※3}

90.1%

従業員サーベイのエンゲージメントに
関する項目より算出

女性店長
比率^{※1}

34.2%

離職率^{※1}

7.3%

出産・育児・介護休業制度利用者^{※1}

129人

育児休業取得後の復帰率^{※1}

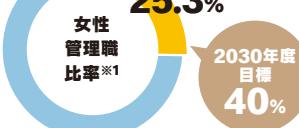
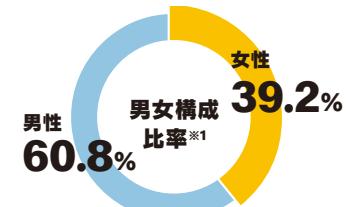
100%

有給休暇取得率^{※1}

60.6%

全社員月間平均残業時間^{※1}

18.7時間



男性の賃金に対する女性の賃金の割合

※1 対象者は日本マクドナルド株式会社社員

※2 対象者は日本マクドナルド株式会社社員およびクルー

※3 対象者は日本マクドナルド株式会社社員と店舗従業員、およびフランチャイズ店舗従業員

※4 対象者は日本マクドナルド株式会社常時雇用労働者

地域ごとの平均時給

最低賃金は各都道府県により定められており、2024年は全国平均で1,055円となっています。
いずれの地域においても最低賃金を100%担保すると共に、マクドナルドのグローバル報酬
ポリシーに則り、役割と責任の大きさに基づく競争力ある報酬水準を設定しています。

労働関連法規の遵守

マクドナルドはビーフリビジネスであり、
法令遵守の徹底を重視し、教育や体制
づくりに取り組んでいます。

第三者意見

誰もが知るブランドであるマクドナルドがサステナビリティに取り組むことは、大きな社会的意義があります。「おいしさと笑顔を地域の皆さんに」というパーサスが示すように、幅広い世代に愛され、日常に寄り添う企業だからこそ発揮できる強みとスケールを活かし、本質的なサステナビリティを実践している姿勢がうかがえます。

「地球環境のために – Our Planet」では、脱炭素や廃棄物削減、リサイクルの取り組みが進んでいる様子が確認できます。また、外食産業で深刻化している食品ロスの課題については、2001年に導入した「マイド・フォー・ユー」システムをはじめ、早期から継続的に取り組み、着実な前進を続けています。

マクドナルドの店舗では、年齢・性別・国籍など多様なバックグラウンドを持つ約21万の方が働いています。これほど多様な人材にとって「働きがい」のある環境を整えるのは容易ではありませんが、外国籍クルー向けの多言語教材や、チャレンジクルー（障がい者）に配慮したユニバーサルデザイン教材などの施策が進められています。本質的なダイバーシティ・エクイティ＆インクルージョン（DE&I）の推進には全社的な意識改革が欠かせませんが、トップマネジメントがスポンサーとなり、多様な人材の活躍をリードする「オープンドア！チーム」の存在も大きいのではないでしょうか。こうした取り組みは、他の企業にとっても参考になるはずです。

サステナブルな企業活動を実現するには、サプライヤーとの協働が不

可欠です。フィレオフィッシュの白身魚のMSC認証、コーヒー豆のレインフォレストアライアンス認証、フライオイルのパーム油のRSPO認証など、サステナブル認証を取得した原材料・資材の使用は特筆に値します。調達量が大きい企業がサステナブルな原材料を選択することは、環境保全やサプライヤーの労働環境改善などに大きな影響を与えます。今後は、認証を取得していない原材料を調達する際にも、人権や環境に十分配慮し、サステナビリティをさらに高めていくことを期待しています。

開示内容が拡充されたものの一つが、人権の尊重です。日本マクドナルドは人権方針を策定し、人権の尊重にコミットしています。近年、企業にはビジネスにおける人権尊重が強く求められており、どのような人権リスクが存在するかを特定し、是正に取り組むことが不可欠です。万が一侵害が起こった場合に備える救済メカニズムの整備も欠かせません。今後は、実効性のある人権デューディリジェンスを行い、自社だけでなくサプライヤーや地域コミュニティなどに配慮した事業活動を進めることができます。

環境や人権などの課題は多岐にわたり、対応が容易でない面も多いでしょう。だからこそ、サステナビリティへの対応を本質的な企業価値の向上につなげる視点が重要です。サステナブル経営のリーディングカンパニーとしての、先進的で本質的な取り組みへのさらなる挑戦を期待しています。



株式会社オウルズコンサルティンググループ
一般社団法人エシカル協会 理事

お お く ぼ あ す な
大久保 明日奈



マクドナルドの サステナビリティ クイズ 編

マクドナルドのサステナビリティやSDGsの取り組みをクイズにしました。

少しむずかしいところもあるけれど、「サステナビリティレポート2024」を読めば、きっとわかるはず。



Q1 サステナビリティとは、
日本語でなんという意味でしょう？

ヒント:6ページ「サステナビリティ方針と戦略」

Q2 マクドナルドが特に力を入れている
SDGsの目標、6つの番号はどれでしょう？

ヒント:6ページ「サステナビリティ方針と戦略」

Q3 マクドナルドが社会や環境をよりよくしていくために取り組んでい
る4つの重点領域とはなんでしょう？

ヒント:6ページ「サステナビリティ方針と戦略」



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



Q4 マクドナルドが気候変動対策の目標としている「2050年ネット・ゼロ・
エミッション」とは、なんの排出量をゼロにすることでしょう？

ヒント:13ページ「地球環境のために – Our Planet」



Q5 再生可能エネルギーとは、
どんな発電方法によるエネルギーのことでしょう？

ヒント:15ページ「脱炭素に向けた取り組み」



Q6 安全安心な食品をお届けするために、マクドナルドと力を合わせて取り
組んでいるパートナーのことをなんとよんでいるでしょう？

ヒント:20ページ「食品安全戦略」、21ページ「生産地から店舗までの品質保証体制」





マクドナルドの サステナビリティ クイズ編

Q7 マクドナルドが衛生管理のために、
お店で毎日行っていることはなんでしょう？

ヒント:22ページ「店舗の衛生管理」



Q8 全国のマクドナルドで働くクルーの人数は
何万人いるでしょう？

ヒント:29ページ「多様な人材の活躍」



Q9 性別、年齢、国籍などが異なる人たちみんながやりがいをもって公平に働くよう、マクドナルドが取り組んでいることをなんという？

ヒント:28ページ「ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョン(DE&I)」



Q10 1971年日本マクドナルド1号店ができるよりも前にできた
社員やクルーが学ぶための専門教育機関とはなんでしょう？

ヒント:31ページ「人材育成とキャリア」



Q11 マクドナルドが2024年10月に行った「ドナルド・マクドナルド・
ハウス」支援のチャリティ活動をなんという？

ヒント:35ページ「ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援」



Q12 マクドナルドが子供の成長を後押しするために、サポートして
いるキッズスポーツはなんでしょう？（3つ答えがあります）

ヒント:36ページ「キッズスポーツ支援」



Q13 危険な目にあった時や困った時に、マクドナルドのお店で
助けを求めるることができます。この取り組みをなんという？

ヒント:37ページ「地域コミュニティと連携した活動」



何問できたか、Webページで答え合わせをしてみよう！
次のページの「ワークシート」にもチャレンジしてみてね♪

<https://w.mdj.jp/1a21wz/>





マクドナルドの サステナビリティ ワークシート編

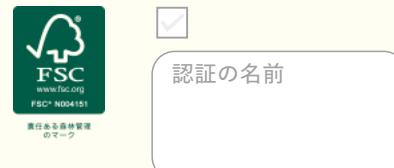
マクドナルドのサステナビリティやSDGsの取り組みをワークシートにしました。
「サステナビリティレポート2024」を読んで、マクドナルドのお店や商品をよく見ればわかるはず。
少しむずかしい問題もあるので、大人といっしょにチャレンジしてくださいね。

Q1 マクドナルドで提供されているパッケージやハッピーセットのおもちゃは、環境に優しいサステナブル素材でできているものがあります。パッケージやハッピーセットのおもちゃをよく見て、どんな素材できているのかを調べ、見つけたものをたくさん書いてみましょう！

ヒント:17ページ「サステナブル素材の活用」

Q2 商品のパッケージには、「認証マーク」がついています。
見つけることができた「認証マーク」にチェックをつけてみましょう！
次に、「認証マーク」の名前やどんなことを守っている認証なのか調べてみましょう！

ヒント:24ページ「責任ある調達」



認証の名前



認証の名前



認証の名前

どんな認証？

どんな認証？

どんな認証？



大人・保護者の皆さんへ

当社の「サステナビリティレポート2024」をサステナビリティやSDGs学習にお役立ていただきたいとの想いで
クイズとワークシートを作成しました。ぜひお子様と一緒にご活用ください。

Q3 マクドナルドでは様々なクルーが働いています。
みんながよく行くお店にはどんなクルーがいるか観察してチェックマークをつけてみましょう！

ヒント:29ページ「多様な人材の活躍」

- 若い世代のクルー(24歳以下)
- プレミアムエイジクルー(60歳以上)
- 外国人クルー
- チャレンジクルー(障がい者)



気づいたことを自由に書いてみよう！

Q4 マクドナルドのお店には、「ドナルド・マクドナルド・ハウス」を支援するための募金箱があります。
その募金箱の絵をかいてみましょう！

ヒント:35ページ
「ドナルド・マクドナルド・ハウスの支援」

クイズやワークシートにチャレンジしていただきありがとうございました！
もっとくわしく知りたいと思った方は、もう一度「サステナビリティレポート2024」を読んだり、
マクドナルドのwebサイトを見たりしてくださいね！